

よこはまの 地区社協活動

令和5年度版



地区社協は「自分たちの地域は自分たちでよくしていこう」という気持ちで組織された地域住民による任意団体です。「一人ひとりの困りごとを解決できる地域づくり」を目的とし、地区内の福祉に関わる団体・施設などが会員となりネットワーク組織として活動しています。

地区社協の機能を大根に例えると…

具体的活動

日々の見守り・サロン
体操教室等の活動



活動を生み出す

気づき

矢印の
循環が大切

基礎的活動

話し合う

ネットワークをつくる
小さな活動を応援する



令和4年度 市内256地区社協の 主な活動実績 (延べ回数)

見守り活動

約**117,800**世帯訪問

サロン、会食などの活動

約**25,600**回開催

生活支援ボランティア

約**24,500**件対応

配食活動

約**133,200**食配付

地区社協状況書から集計

この図は地区社協の機能を大根に例えた図です。目に見える葉っぱの部分は日々の見守りやサロン、体操教室などの具体的な活動を表し、外から見えない大根の根の部分は話し合いやネットワークなどの基礎的な活動を表しています。

日常生活や活動を通じて把握された地域の変化に対する気づきを地区社協の中で共有し、話し合うことは地域の変化に対応していくためにとても大切な機能です。

次のページでは、地区社協でどのような困りごとに気づき、話し合っているかをご紹介します →

気づきから始まる 地区社協の取組

地区社協は一人ひとりの気づきをみんなで共有し、ネットワークを活かして何ができるかを検討しながら様々な取組を進めることができます。

日頃、なかなか目に触れる機会のない地区社協の話し合いの様子を、実例をもとにご紹介します。



実例1 つながりがなく、ちょっと気になる人

コロナ禍を経て、見守りの対象者になってはいないけど、地域とつながりがなく見守りが必要そうな人たちが増えていることに気がついた地区社協は…

気づき



民生委員

民生委員の訪問対象ではない方でも、気になる方が増えてきたわ…。



老人クラブ

自治会や老人クラブに入っていない人の方が気になるけど、何もできていない…。

地域の活動に参加しない人の方が気になるのよね…。



体操グループ

Point

住民だからこそ普段の生活の中で気づくことができる

地域全体で見守りについて考えよう！

共有 地区社協「ゆるやかなつながりを考える会」開催

テーマ

- ・それぞれが対応している個別の事例
- ・地域ケアプラザに寄せられる相談の様子
- ・どんな人が気になる？

検討

つながりづくりのために何ができるか、具体的な取組を次回検討予定！



地区連合

自治会
民生委員
老人クラブ
交通安全母の会
青少年指導員
体操グループ
保健活動推進員
スポーツ推進員
地域ケアプラザ
区社協 など

Point

ネットワークを活かして様々な立場の人と話し合うことができる

見守りの目が届きにくい子ども達

※スクールソーシャルワーカーは家庭、学校、地域の関係機関をつなぎ、児童生徒の悩みや問題の解決に向けて支援する専門職です。

地域ケアプラザ



何か、私たちで出来ることはないだろうか？



地域ケアプラザ



防災備蓄品の入れ替えも近いから、活用できるかも。

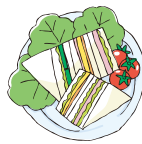


声かけ



対象となる子ども達

参加



地域ケアプラザと地区社協で毎週実施！

Point

気になったことを
話せる場がある

Point

それぞれの立場
から自分たちに
できそうなこと
を出しあえる

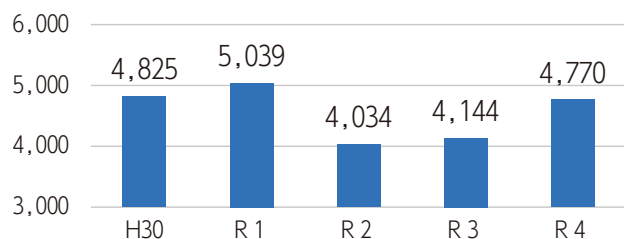
Point

専門機関と連携
して必要な人の
ための活動を生
み出せる

令和4年度

地区社協状況書からみえる話し合いの場の状況

主催会議の推移（延べ回数）



地区社協の基盤は話し合い

コロナ禍で多くの活動は休止を余儀なくされましたが、地区社協の会議は様々な工夫のもとで開催され、現在ではコロナ前の状況に戻ってきています。

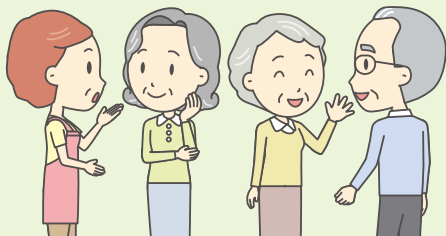


話し合いについてこんな悩みも…

- 地区社協が行事を実施するための組織になってしまっていて「困っている人に対して、何が出来るか」という議論ができていない。
- 困りごとの検討ができず、連絡事項を共有するだけの会議になっている。
- 会議で出た課題を各団体に持ち帰って検討してもらったり、また、各団体の抱えている課題を地区社協の会議の場で共有してもらいたい。

話し合いの場の工夫

- 会議は全て議事録を作成し、欠席者にもメールやポスティングなどで共有。情報共有を大切にしている。
- 定期的な会議の場だけでなく、普段の会話、雑談からも情報共有を行っている。
- 日常的なコミュニケーションの中で住民の困りごとを吸い上げ、役員会の中で課題解決に向けた話し合いをしている。
- 役員会で話し合ったことは毎月行われる地区連合や地区別計画推進委員会でも報告している。



話し合いに対する想い 地区社協への想い

- いつものメンバーだけでなく新しい方の意見も取り入れ、裾野を広げていきたい。
- 行事や活動の参加人数のことだけでなく、一人ひとりの困りごとに向き合えるようにしたい。
- 地区社協が住民一人ひとりの困りごとを受け止められる組織になる必要性を感じている。
- 民生委員は個別の支援を行うが、そこから全体の支援につなげていくのが地区社協だと思っている。民生委員が把握した地域の課題を地区社協で共有できる仕組みづくりをしていきたい。

横浜市内256地区社会福祉協議会
横浜市内18区社会福祉協議会・横浜市社会福祉協議会
令和6年2月発行

発行元：社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 地域福祉課
TEL.045-201-8616 FAX.045-201-1620

このリーフレットは、赤い羽根共同募金の
配分を受けて発行しています。



募金の使い道はこちら